

西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部

地域活動論叢

2023 年度



大学公式キャラクター
かなめ
要ちゃん

とどけ!ぬくもり
要(かなめ)から

目 次

巻頭言 地域連携室室長 荒木 剛	1
西南女学院大学・短期大学部の地域貢献活動の概要	4
《子ども・子育て支援と学校教育》	
1. 一緒にあそぼう	5
2. いぼりの森の《みんな、だぁ～い好き!!》“みんな♪フレアイ隊”	7
3. 手形で空・海に好きな物を書こう	10
4. 商船三井テクノトレード MOTENA-Sea 親子ふれあい企画（栄養学科担当）	12
5. 商船三井テクノトレード MOTENA-Sea 親子ふれあい企画（保育科担当）	15
《食と健康》	
6. 親子で歯っぴー食育こうぞ	18
《観光と地域活性化》	
7. 観光庁補助事業：地域独自の観光資源を活用した看板商品の開発事業 （行橋市看板商品開発事業）	21
8. 北九州市のインバウンド観光振興活動	23
9. 北九州魅力探求プログラム・アオハルし放題	26
10. つなぐヒカリプロジェクト2023	29
トピックス	32
2023年度地域連携室の取り組み	
1. MOTENA-Sea プロジェクト	36
2. 中国茶セミナー	37
3. 後期北九州市民カレッジ	40
4. フードドライブキャンペーン	44
5. 広報活動	45
今につながるカー学内ボランティア「ちゃれんじ」の活動から得たこと	48
マスメディアに見る 地域連携室 2023年度の歩み ～地域連携室の足跡～	49

巻 頭 言

地域連携室室長 荒木 剛

本年度も無事に『地域活動論叢』を刊行することができました。改めまして学生や教職員の方々をはじめ、本学の地域貢献活動に携わって頂きましたすべての関係者の皆様方に感謝を申し上げます。

さて、本編でも紹介されていますように、2023年度は10件[※]の地域貢献活動への取り組みが見られ、そのうちの約半数がこどもたち（未就学児や小学生）を対象とした活動でした。ご承知の通り、わが国では少子化が急速に進む中、こども・子育て支援が大きな社会課題となっています。現在、こどもに関する取組や政策を社会の真ん中に据えた「こどもまんなか社会」が標榜され、2023年4月には、その司令塔として「こども家庭庁」が創設されました。今後、こども関連施策の拡充・推進が期待されますが、その基本理念の1つに、すべてのこどもの健やかな成長と Well-being（幸せな状態）の向上が掲げられています。すなわち、こどもが安心・安全に過ごせる居場所を社会の中に創出し、さまざまな学びや体験を通して、健やかな成長と Well-being の実現を目指すというものです。

先日、こどもたちを対象（主役）としたある地域貢献活動を見学させて頂きました。約20名のこどもたちが活動に参加していましたが、その1人ひとりの生き生きとした表情や身体いっぱい喜びを表現する姿がとても印象に残りました。同時に、地域貢献活動が先述したこどもたちの健やかな成長と Well-being に大きく寄与し、「こどもまんなか社会」ならぬ「こどもまんなか地域」を創っていく、1つのきっかけになるのではないかと感じました。地域貢献活動への参加を通して、こどもたちが笑顔になり、さらにそのこどもたちを取り巻く大人たちがつながり、地域全体でこどもたちの育ちと幸せを支える。本学の地域貢献活動が、そうした地域づくりのきっかけになればとても嬉しいことです。

最後に、2023年度は新型コロナウイルスが5類感染症へと移行し、地域連携室の運営と地域貢献活動も本格的な With コロナでの取り組みとなりました。引き続き、地域貢献活動に携わるすべての皆様方が安心・安全のもとで活動に取り組めるよう、地域連携室としての役割をしっかりと果たしていきたいと考えております。皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※10件はあくまで地域連携室への活動申請を行った件数です。実際には、その数以上の地域貢献活動への取り組みが行われています。



西南女学院大学・短期大学部の地域貢献活動（概要）

本学では感恩奉仕の建学の精神にもとづき、女性らしい豊かな人間力と専門的な実践力で社会に貢献する人材育成を目指しています。座学に加え、学生たちが自ら学外に出向き、さまざまな課題に向き合い、できることをみつけていくことを大切に参りました。これまでの学生参加の地域貢献活動を活動形態別にみますと次の6つに分けることができます。

- ① 市民公開講座：最新の知識・技術、生活の知恵などを提供する講義や演習
- ② 体験・アクティビティ：あそぶ、食べる、学ぶ、語り合うなどの体験型の企画
- ③ ピアサポートグループ活動：介護や子育ての悩みなどを参加者同士で受けとめ支え合うグループ活動
- ④ 提案とアクション：若い女性の視点を取り入れた商品開発や地域活性化への提案とアクション
- ⑤ 海外における貢献活動：アジア地域での地域貢献活動
- ⑥ そのほか

また、課題別にみると6つに分けることができます。

- ① 健康・食・運動
- ② 福祉・介護
- ③ 子ども・子育て
- ④ 学校教育
- ⑤ 産業・観光
- ⑥ 地域づくり

2023年の地域貢献活動は10件でした。『地域活動論叢2023』では、課題別に＜子ども・子育て支援と学校教育＞及び＜食と健康＞＜観光と地域活性化＞に分類し（下表参照）、それぞれの1年間の成果と課題をまとめました。本書は、この1年間の学生たちと教職員が地域の皆様とともに歩んだ道のりをコンパクトにまとめたものであります。これらが地域の皆様と私たちにとって共通の宝物となりますことを祈念しております。

表 2023年度に本学で実施された地域貢献活動

<p><子ども・子育て支援と学校教育></p> <ul style="list-style-type: none">・ 一緒にあそぼう [障害のある子どもとそのきょうだい]・ いぼりの森の《みんな、だぁ〜い好き!!》“みんな♪フレアイ隊” [地域の未就園児]・ 手形で空・海に好きな物を書こう [宗像市内近隣に住む小学生]・ 商船三井テクノトレード MOTENA-Sea 親子ふれあい企画（栄養学科担当） [小学生]・ 商船三井テクノトレード MOTENA-Sea 親子ふれあい企画（保育科担当） [小学生] <p><食と健康></p> <ul style="list-style-type: none">・ 親子で歯っぴー食育こうざ [北九州市内に在住する小学生とその保護者] <p><観光と地域活性化></p> <ul style="list-style-type: none">・ 観光庁補助事業：地域独自の観光資源を活用した看板商品の開発事業（行橋市看板商品開発事業） [国内外観光客]・ 北九州市のインバウンド観光振興活動 [市民・観光客]・ 北九州魅力探求プログラム・アオハルし放題 [中高生・高校生・大学生]・ つなぐヒカリプロジェクト2023 [市民]

注) [] 内は協働のパートナーあるいは支援の対象です。

1. 企画名：一緒にあそぼう

2. 団体名：ちゃれんじ

3. 企画代表者 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科 山本 佳代子

4. 概要

(1) 目的

障害のある子どもときょうだい、その家族を対象とし余暇活動支援を行う。参加者は、さまざまなレクリエーション活動を通し体験を重ねること、楽しく身体を動かしながら多様な動きを身につけること、仲間と体験を共有することを目的とする。また学生スタッフは、子どもたちや保護者との関りから、障害や障害を取り巻く環境についての理解を深めること、実践を通し場面に応じた声かけや関わり方を学ぶこと、プログラムの企画や実践の力をつけることを目的とする。

①対象：障害のある子どもときょうだい、その家族

②内容：レクリエーション活動・食育活動・公共交通機関を使っておでかけ・アート活動他

③活動場所：西南女学院大学・若松グリーンパーク他

(2) 実施日時・場所・内容・参加人数

2023年度 ちゃれんじスケジュール

活動日	時間	場所	活動内容	参加者	学生スタッフ
4月13日(木)	10:30~12:00	大学教室	スタッフミーティング(2022振り返り+2023)		21名
4月27日(木)	10:30~12:00	大学教室	スタッフミーティング(4月おでかけ確認)		13名
4月29日(土)	12:00~16:00	鉄道記念館	鉄道記念館へおでかけ~電車に乗って出かけよう	4家族12名	12名
5月11日(木)	10:30~12:00	大学教室	スタッフミーティング(ふりかえり)		15名
7月6日(木)	16:00~18:00	大学第二体育館	レクリエーション(水遊び)	2家族6名	8名
8月11日(土)	10:00~12:00	スポーツセンター戸畑	ダンスワークショップ(外部講師)	4家族12名	教員2名
10月5日(木)	16:00~18:00	大学第二体育館	レクリエーション(秋のプチ運動会)	6家族19名	14名
10月12日(木)	21:00~22:00	meet	スタッフミーティングmeet(ふりかえり)		16名
10月19日(木)	21:00~22:00				9名
11月2日(木)	16:00~18:00	大学第二体育館	レクリエーション(秋のアート活動)	6家族18名	14名
11月14日(火)	13:00~14:00	大学教室	スタッフミーティング(ふりかえり)		17名
	14:00~14:30		スタッフミーティング(11月収穫確認)		8名
11月23日(木)	10:30~13:00	若松グリーンパーク	グリーンパークじゃがいも収穫	9家族24名	14名+山田ゼミ2名
12月2日(土)	10:00~15:00	大学調理室	親子クッキング&クリスマス会	7家族17名	13名+山田ゼミ3名
12月14日(木)	10:30~12:00	大学教室	スタッフミーティングふりかえり		13名

(3) インシデントの有無

なし

5. 評価及び企画の妥当性と今後の課題

参加保護者へのアンケートからは、「きょうだい揃って参加できること」「保護者間の交流ができること」「学生に見守られながら子どもがやりたいことに挑戦できることやその姿を見る喜び」などが伝えられた。

卒業するスタッフへのアンケートからは、障害のある子どもとの関わり方だけでなく、活動を通し、企画力、協調性、洞察力などをつけることができたという結果が得られた。今年度は新しく5家族を迎え、参加者は4歳から20歳まで多様な世代の参加があった。今後、年齢に応じた活動を展開できるよう内容を工夫していくことが求められる。また、今年度はスケジュールの調整がつかず、きょうだいのみを対象とした活動を開催できなかった。来年度は、「きょうだいの会」を設け継続した開催ができるよう検討を重ねていく。

6. 決算

西南女学院大学地域貢献活動助成金

7. 謝辞

活動に参加し、共に学生指導に取り組んでくださる看護学科の樋口由貴子先生、毎年食育活動にご協力くださる若松グリーンパークの皆さま、栄養学科の山田志麻先生とゼミ生の皆さまに御礼申し上げます。

8. 写真資料



第二体育館でのレクリエーション活動



活動後のふりかえり



学内調理室での親子クッキング



教室でのアート活動



クリスマス会

1. 企画名 いぼりの森《みんな、だあ〜い好き！！》
 みんな♪フレイアイ隊

2. 主催者名 北九州市立井堀市民センター
 3. 企画代表者 短期大学部保育科 藤田 稔子

4. 概要

(1) 活動の概要と目的

毎年、校区内にある北九州市立井堀市民センターで月1回、0・1・2歳のお子さんと保護者を対象に子育て支援活動を月に1回のペースで続け、今年で8年目になります。

本活動は、保育科2年生の「子ども学特別演習」という所謂ゼミの一環として行っています。保育科ではゼミは時間割の中に週1回決められた時間が設けられています。しかし、今年度もその科目が午後に配置されており、本活動の対象者である乳児には適さない時間帯でした。そのため、今年度も、ゼミ生の空きコマを利用しての開催日調整となりました。学生メンバーは、3名でしたが、今年度もまだ事前予約制の参加であるため少人数で開催でき、じっくりと親子の反応を見ながら展開できる活動となりました。

(2) 内容

場所：北九州市立井堀市民センター 多目的ホール

時間：9：20-10：00

開催日	テーマ	内容	参加者数
4月20日	お花がいっぱい	《製作あそび》 好きな折り紙を貼り付けてお花を沢山作って花束にしました。	児 5名 親 4名
5月18日	お母さん大好き	《製作あそび》 お母さんへのメッセージカードとカップケーキのプレゼントをつくりました。	児 5名 親 5名
6月15日	雨のお友達	《コーナーあそび》 絵本「そうさんのさんぽ」を元に学生達の作ったボーリング等であそびました。	児 7名 親 6名
7月20日	お星さまキラキラ	《製作あそび》 お星さまをたくさん集めて、窓にできた天の川にお星さまを飾っていきました。	児 4名 親 4名
10月19日	魔法使いはどこ	《コーナーあそび》 蜘蛛の巣をくぐったり、魔女が隠した宝物を探したりホールいっぱい遊びました	児 6名 親 6名
11月16日	雪は降ってきたよ	《製作あそび》 ビニール袋と綿と紙コップで雪だるまを作りました。	児 3名 親 3名
12月14日	サンタさんの内緒話し	《製作あそび》 アドベントカレンダーをつくりました。	児 3名 親 3名
1月18日	お正月あそび	《製作あそび》 みんなですごろく遊びをした後、凧を作って、飛ばしてみました。	児 3名 親 3名

5. 振り返り

3名という少ない人数で月に1回のペースで活動を企画運営するため、毎日が十分振り返る間もなく追われているように見えていました。しかし、学生なりに毎回振り返りをし、改善すべき点を考え、次に生かそうとしていました。以下にメンバー3名の振り返りの一部を記述します。

① 保護者との貴重な触れ合いの場

- ★子どもたちだけではなく、保護者の方と関わることができました。実習では子どもたちだけで保護者の方と関われませんでした。そのため保護者の方とも話すことで子どもたちのことが聞け、多くのことを学び、実習とは違った経験が出来ました。
- ★保育士になって役立ちそうなことも学ぶことが出来ました。自分から話す機会、どのような話をしようかなと考えさせられました。
- ★実習では実習生が保護者の方とお話をする機会はほとんどないため、フレイアイ隊を通して保護者の方とお話しをしたり、保護者の方が子どもたちとどう関わっているのかを実際に見て知ることが出来ました。

③ 未満児さんとの関わり

- ★話せない子どもたちや、ハイハイをしている子どもたちが多く、どのように声掛けをしたらいいのか分からなかったですが、たくさん関わる中でどのようなことが好きなのかなどを知ることが出来たことです。
- ★未満児の子どもとは、実習しかあったことがなくていつもどのように関わったらいいかな、と考えていました。いつも予想外なことも沢山するので、今日はこのような遊びをしたら喜んでくれるかな、どうしたら子どもたちが楽しいかななどを考えながら遊びを考えていました。未満児の子どもたちはいつも可愛くて、このようなことをしたら、こういうことをしてくれるのだなと思わせてくれました。
- ★未満児と関わることは保育所実習での数日しかなかったため、どのように関わるべきなのか難しかったですが、遊びを決める中で未満児の子どもでも難しくなく楽しめるにはどうしたらいいのかを考える機会となり自分自身も勉強になりました。

④ 前に出ることの機会に恵まれた

- ★前に出て、子どもや保護者の方に分かりやすく説明したり、子どもたち一人ひとり関わることの接し方の難しさがあり、前に出る時の緊張感を学びました。しかし、月一ですることによって緊張もなくなり、どのようにしたら伝わるかななど自分たちで考えながらすることが出来ました。

6. 活動経費

井堀市民センターの経費から材料費を支出いただきました。

7. 今後の課題

学生数の減少、そして、このような活動をしたいと思う学生の減少は顕著です。そのような中、この活動を担ってくれる学生には、最大限の学びを得てもらいたいと願っています。今後は、1人でも多くの学生がこのような活動に興味関心を持ってもらえるように努めていきます。

8. お礼

いつも活動を支えてくださる、井堀市民センター館長の内藤さま、井上さまはじめ皆さまには心から感謝申し上げます。また、毎回楽しみに、参加してくださるお母さま、子ども達、ありがとうございます！！

【活動の様子】

2024年1月18日 「お正月あそび」のひと場面



すごろくは、大きなサイコロを振って
色々指令をこなします♪



みんな、真剣に凧作り



今年度も最後に
掲示板の壁面を
リニューアル。
今回は
「トトロ」
です。

1. 企画名： 手形で空・海に好きなものを書こう

2. 企画代表者： 保健福祉学部 看護学科 吉原 悦子

3. 概要

①ひのさと 48 での活動となった経緯

ひのさと 48 は西部ガスなどの企業が「団地再生プロジェクト」として取り組んでいる場所である。これまで、「西部ガス株式会社 都市リビング開発部 まちづくりソリューショングループ」の馬場氏より、地域づくりについて企業の取り組みについて教示していただきながら、本学のゼミ活動、ボランティア活動など、ひのさとのフィールドを活用した産学での連携を模索していた。そこで、今回、ひのさと 48 における地域づくりの場をお借りして、学生が地域の人々と交流するための企画を立案し運営を行うこととなった。

②目的

「家ではできない遊びをしようという」趣旨で、普段家ではできない、これまで使用したことがない絵具などを使用することで、非日常を味わうことを目指す。

「たのしいこと」を通じて・普段できないことを体験する・1つの作品をみんなで作り上げる達成感味わう・想像力を養う、ことを目的とする。

③実施内容

日 時：2023年9月16日（土）10：00～12：00

場 所：日の里 はことキッチン

参加者：子供 10 名

保護者 4 名

学生（看護学科 6 名）

内 容：事前作成した空と海の下絵の上に、子供たちの手形でさまざまな動物や果物などを描き、1つの絵として完成させる。

完成した絵は、子供カフェに飾る。

4. 振り返り

①準備について

企画から運営、西部ガス担当者との打ち合わせなどすべての過程において、学生が役割を担い中心となって行ってきた。最初は、科目の演習実習としての企画に倣い健康教室などの意見が出たが、そこからの進展が見られなかったため、「たのしいこと、やってみたいと思うこと」を考えることにした。夏祭りやかき氷、浴衣を着るのも楽しそう、さらに、水鉄砲で遊ぶのは？うちわの絵付けは？と意見を出し合う中で、対象を小児に絞り、内容を精選する中で、手形アートに注目した。様々なアドバイスを受け、ひのさと 48 を見学し、まずはやってみよう自分たちで手形をとり、絵を作成していった。その過程で、「対象は小学生？幼児でも可能？」「わくわくする」「手形だけでなく指もいいね」「絵の具がにじむ」「これについては注意が必要かも」と方法を検討し安全面にも目を向け、企画をブラッシュアップしていった。

②当日の運営

当日はまだ残暑の厳しい中での実施予定のため、事前に熱中症への対応を検討し、屋内で実施した。また、直接絵の具が皮膚に付着するため、アレルギーへの対応として、絵具は安全性の高いものを選定

した。また、参加人数が多い時には入室を制限すること、小学生未満の子供には保護者と一緒にしてもらうなどの配慮を行った。学生は、役割を分担しながらも臨機応変に絵の具の準備や子供たちへの関わり、また、保護者への声かけなど行っており、問題なく終了することができた。

また、学生たちが想定していたよりも参加者が少なく（近隣での他のイベントと重なっていたため）、参加していただいた子供たちには丁寧にかかわることができ、「楽しかった」「もっとしたい」などの声があり、楽しい時間を共有できたと考える。

③評価と今後の課題

参加した学生たちは、コロナ禍での入学という状況で「名前はわかるけど親しく話したことはない」という形でゼミが始まった。そのため、話し合いもお互いに気兼ねし、うまく進まないこともあったが、現地見学や事前準備を行い、徐々に企画が具体化して行く中で、話し合いも十分できるようになってきた。また、当日は役割がありながらも学生同士お互いに声をかけあい、参加者には積極的に声をかけることやその特性を捉えながら、運営ができた。企画段階で「まずはやってみよう、失敗してもいいじゃない」と馬場様から声をかけていただき、学生自身も肩の力が抜け、楽しめたようである。どうしたらみんなで楽しめるのか、自分たちのできる範囲はどこまでか、どんな支援を依頼するのかなど企画、運営する中でチームとして協働する力が養えたのではないか。さらに、「看護師として地域に関っていく」ひとつのきっかけになったといえる。

学生たちは、講義演習などで時間の確保が難しい状況ではあるが、今後は異学年での活動も視野にいれつつ、学生が地域活動に関わることができるように支援していく。

5. 決算

西南女学院大学地域貢献活動助成金

6. 謝辞

今回の活動を行うにあたり、西部ガス株式会社都市リビング開発部 まちづくりソリューショングループの馬場さまはじめ、ご協力いただいた皆様、活動に参加して下さった皆様に心より感謝申し上げます。



1. 企画名 商船三井テクノトレード MOTENA-Sea 親子ふれあい企画 (栄養学科担当分)

2. 企画代表者 西南女学院大学保健福祉学部 栄養学科 永原 真奈見

活動補助 西南女学院大学保健福祉学部 栄養学科 細井 菜穂子

活動学生 永原ゼミ3年生(8名) 石川 晶 ・小倉 由佳 ・金山 未歩 ・島田 恵利
高橋 真美子・田中 琴乃 ・原 愛梨 ・原 果南

3. 概要

(1) 活動の経緯

商船三井テクノトレード株式会社及び株式会社 MOTENA-Sea との先進船舶活用企画「MOTENA-Sea プロジェクト」の一環として、学童及びその家族を対象に、船上でできる遊びをイメージしつつ、保育科と共同でイベントを大学内にて開催した。栄養学科は、遊びながら北九州市で獲れる魚や魚を使った料理、バランスのよい食べ方について学べる『食育』を担当した。

(2) 対象者および開催日時・開催場所

対象者：小学生15名及び幼児12名とその保護者

開催日：2023年11月3日(祝・金)9:30~11:30

場所：西南女学院大学8号館1階、マロリーホール、5号館裏、中庭

(3) 活動の詳細

① 全体の活動(保育科と共通分)

コンセプト「海賊になって、様々な指令をクリアしながらお宝を手に入れよう！」

タイトル 「お宝GETだぜ」

② 栄養学科の活動(食育)

ゲーム①「輪投げ」(+食育クイズ)

ねらい：● 主食・主菜・副菜・牛乳・乳製品・果物をそろえてバランスよく食べよう！

● 魚料理を覚えよう！

・5回投げ、コーンに輪が入った分だけ点数が得られる。また食育クイズ3問に答える。

・コーンの色によって、黄色は主食、赤色は主菜(今回は船企画のため魚料理)、緑色は副菜、紫色は牛乳・乳製品、青色は果物の料理の写真を貼ることで、料理区分と色を意識させる。

・黄色(主食)・赤色(主菜)・緑色(副菜)がそろったらプラス1点、黄色(主食)・赤色(主菜)・緑色(副菜)・紫色(牛乳・乳製品)・青色(果物)がそろったらプラス2点得られる。

ゲーム②「魚釣り」

ねらい：● 北九州市近郊で獲れる魚の名前と漁期を覚えよう！

・北九州の魚を釣って名前を答えたら2点、漁期を答えると1点得られる。

・北九州市以外の魚を釣ると1点得られる。

ゲーム③「宝探し」

ねらい：● 魚や野菜、果物の名前を覚えよう！ ● 野菜を1日300g以上食べよう！

・魚、野菜、果物の写真を海賊船や宝箱の中、ネットの下などに隠しておく。見つけたら、写真の裏に書いた各食品の名前を学生と一緒に確認する。

・野菜の写真の裏には重量も書いておき、見つけた野菜の重量に応じて加点が得られる。

4. 評価

【総評】

学童や幼児を対象とした遊びを通じた食育活動を実践し、新たな発見と学びがあった。特に今回は、ゲーム内容やルールの考案、会場の飾りつけ、ゲームに必要な道具の制作、パンフレット作成に至るまで、学生が主体的に活動したことにより、学生特有の斬新なアイデアが各所に見受けられた。一例として、タブレット上で魚のイラストを描き、彩色して印刷した点や、直径 1.3m 程の大きな海賊船を段ボールで作成した点、カラフルなスズランテープを駆使して海の波やワカメ、イソギンチャク等を表現した点等が挙げられる。

保育科が企画して下さった、子ども達が金貨を使って武器を購入する、海賊の帽子を工作して身に付けることで海賊になりきる、宝の地図を持ち、各ブースでミッションをこなしながら金貨をゲットしていく、等の手法は大変参考になった。普段は密に接することのない他学科と協働することで、有意義な学びが得られることを強く実感させられた。

今回、参加した子ども達から「この前食べた魚はこれだったんだ！」や「授業に出てきた魚ってどれだっけ？」等の言葉が聞かれ、媒体の写真と実生活における体験とを結び付けて考えることができていたことは大変意義深い成果であった。遊びを通して、自然に魚や野菜の名前、バランスよく食べることや野菜をしっかり食べることの大切さを伝えることができたと考えている。特に、子どもの魚離れがささやかれる昨今、遊びながら魚の名前や魚料理に触れたことで、少しでも魚を食べようという意欲が培われるきっかけとなっていれば幸いである。今後、このような食育活動を繰り返し実施し、小学校等と連携した取組みを行うことによって、更なる子ども達への定着へとつなげていきたいと考えている。

【参加学生の声】

(学んだこと・感じたこと)

- ・楽しそうにイベントに参加してくれる子ども達や保護者の方をみて達成感がとても大きかった。
- ・保育科の学生さんとの交流ができ、子どもとの関わり方や接し方を学ばせていただいた。
- ・学生同士で案を出し合いながらゲームを構成し、実際に楽しんでもらえてとても嬉しかった。
- ・食育クイズでは、子どもだけでなく、保護者の方からも「勉強になる」との言葉をいただいた。

(改善すべきこと)

- ・子どものグループが分かりやすいように帽子やリストバンド等で色分けする工夫が必要。
- ・幼児でも答えられるクイズや待ち時間にできることを用意しておくとう良かった。
- ・3つのゲームの所要時間をそろえておくことでうまくローテーションできるように改善する。

5. 今後の課題

今回は学童向けの企画として準備したが、想定よりも幼児の参加者が多かったことから、今後は幼児向けの媒体やゲーム内容等も検討していきたい。また、300gの野菜の実物や北九州市近郊で獲れる魚のイラストの一覧等、子どもにも分かりやすい展示物を準備しておくとう良かった。

6. 活動経費

西南女学院大学 地域貢献活動助成金より、材料費を支出いただきました。

7. 謝辞

本活動にご参加下さいました小学生及び幼児とその保護者の皆様、商船三井テクノトレード株式会社の皆様、実施に当たり多数のご助言をいただきました西南女学院大学の伊藤直子先生、荒木剛先生、藤田稔子先生、職員の皆様に心より御礼申し上げます。

◎事前準備



◎集合写真



◎ゲーム①「輪投げ」



示した魚料理

- ・サバの糠炊き
- ・マダイの塩焼き
- ・サワラのみりん干し
- ・ブリの照り焼き
- ・ヒラメの刺身
- ・カキフライ
- ・スズキのムニエル

掲示物

5つの料理をそろえてバランス名人!

果物
ミカン、リンゴ、カキ、ブドウ、モモなど。季節の果物をおいしく食べよう!

主菜
肉や魚、卵、大豆などの料理。おもに体をつくるものになるもの。

牛乳・乳製品
牛乳、ヨーグルト、チーズなど。骨や歯をまろやかにするカルシウムをとることができる。

主食
ごはん、パン、めんなど。おもにエネルギーになるもの。

副菜
野菜、きのこ、いも、海苔料理など。おもにからだの調子をととのえるもの。

◎ゲーム②「魚釣り」



掲示物

北九州市でとれるお魚たち

- ★カサゴ
- ★クロダイ
- ★サワラ
- ★スズキ
- ★フグ
- ★ブリ
- ★マダイ
- ★コウイカ
- ★マダコ
- ★ウニ
- ★クルマエビ
- ★カキ
- ★サザエ
- ★ワカメ

◎ゲーム③「宝探し」



掲示物

野菜を1日

300グラム以上食べよう!

◎作成パンフレット



関門海峡の海の生き物図鑑 No.1 カサゴ

名前:カサゴ
漢字:岩子
英語:Rockfish

主な産地:関東

漁獲量ランキング
1位:大分県
2位:熊本県
3位:愛媛県

食べ方
煮つけ、から揚げ、みぞれ

特徴
花火節ではカサゴとゆわれ、花火節以前の日本各地の岩礁漁場に分布している。生息する場所によって体色が異なる。岩礁に隠れるのが得意で、深みいものはよく食べている。岩で遊ぶ魚の習性がある。たけなを産むのが特徴。

関門海峡の海の生き物図鑑 No.5 フグ

名前:ふく
漢字:河豚
英語:Blowfish など

旬:11~2月

漁獲量ランキング
1位:北海道
2位:石川県
3位:愛知県

有名な産地:下関など

特徴
丸みのある体形で、背骨が小さく、骨が硬い。水で膨らめれば、空気を吸い込んで、敵を押し返すものが多い。肉は白く美味い。肉質は硬く、味も独特。

おすすめの食べ方
・お刺身
・鍋
・雑炊
・フライ など



1. 企画名 商船三井テクノトレード MOTENA-sea 親子ふれあい企画
(保育科担当分)

お宝 GET だぜ！

2. 主催者名 MOTENA-sea プロジェクト
3. 企画代表者 短期大学部 保育科 藤田 稔子
4. 概要

(1) 活動の概要と目的

商船三井テクノトレード株式会社及び株式会社 MOTENA-sea との先進船舶活用企画「MOTENA-sea プロジェクト」に関して、2022 年度の人文学部の成果発表を参考に、2023 年度前期に保育科 1 年生科目「初年次セミナー」で子どもをターゲットにした様々なアイデアを出し合いました。そのアイデアをベースに、2024 年 4 月に就航する船での親子対象としたイベントについて、「船舶上で生きるか」「親子連れ集客が見込めるか」の査定をするための開催でした。

本来ならば、船舶上で「海」「船」「魚」を題材にしたあそびを展開することが妥当ですが、今回は、陸上（学内）でせざるを得ない状況でありました。陸上で開催することは、「船舶上の」という付加価値がなく、子ども達にとって魅力的であり十分楽しめる内容でなければ、募集をかけたとしても参加者は集まらないと推察していました。そのため、今回は、「海賊船が一時魔国に上陸して」という設定を付け、船舶上で実施する内容を一部「陸上バージョン」に内容を改編し、広いキャンパス内で子ども達が安全に体を使って十分あそびきれの内容にし、実施しました。

(2) 内容 HANARIA を海賊船とみなして、海賊の世界を作り上げる

場 所：西南女学院大学

8 号館、5 館前ロータリー、第 1 体育館前中庭、マロリーホール

日 時：2023 年 11 月 3 日（祝・金） 10：00-11：30

参加者：子ども 32 名、保護者 13 名

学生スタッフ：保育科 2 年 5 名、1 年 6 名、看護学科 1 年 3 名

【プログラム】

- ① 海賊に変身する。
子ども達は、海賊の帽子を作り、
剣等を身につけ、海賊になる。
- ② 受付でもらった金貨で剣を買う。
- ③ 船長から地図が渡され、海賊船での
あそびの説明を聞く。



④ グループに分かれて、あそびを楽しむ。

* 食育あそびは、栄養学科が担当（内容詳細は、別頁参照）

★ダンジョンでカード集め 《5号館裏》

- ・ダンジョン（ロータリーの植え込み）で恐竜を探す。
- ・伝説の生き物（ドラゴンやキマイラ等）のカードを山賊と闘って手に入れる。最後に、手に入れたカードの総レベルによって金貨を獲得する。



★双眼鏡で魔王城を探せ 《中庭》

- ・ヒントとなるものを展望 Point から見える場所に掲示する。
- ・双眼鏡を使って見つけたヒントから魔王城の場所を見つける。

★魔王の王女とカード対決 《マロリーホール》

- ・ダンジョンで手に入れたカードで魔王の王女と闘い、勝利したら宝箱を受け取る。
- ・対決の結果に応じた金貨を魔王の王女から受け取る。
- ・魔王城攻略の証拠写真を撮る。



⑤ 魔王城から戻ってきたら、船長に魔王城攻略の証拠写真を見せ海賊船に乗船
魔王城から持ち帰った宝箱（大・中・小）から宝をもらう。

5. 振り返り

後日、保護者の皆さまからアンケートのご協力をお願いしました。自由記述の感想を抜粋し以下に記述します。

- ・魔王城の魔王姫がとても面白かったです。
- ・剣で戦ったり、恐竜を探したりして楽しかったと言ってます。うちの子は海賊が好きなものでとても喜んでいました。ありがとうございました。
- ・たくさん準備していただき楽しませて頂きました！簡単な地図を自分たちで見ながらお宝を探していく！ような内容も楽しいのかな♡と思いました！
- ・剣や被り物など小道具で海賊になりきって楽しんでいたと思います。お土産も豪華で驚きました！
- ・秋晴れの良いお天気のもと、いつもの環境でない場所で遊んだりするのは、大丈夫かな？と心配もありましたが、集まった時から終わったあとまで全力で遊んでいる様子がとても嬉しかったです。企画してくださった先生方、ボランティアスタッフの学生さん、本当にありがとうございます。

その他多くの方から、このようなイベントがあればぜひ次回も案内をいただきたい、との要望が寄せられました。



6. 活動経費

地域連携室助成金から材料費を支出しました。

7. お礼

条件、制約があったイベントの企画でしたが、その中で内容を考え、準備をすすめてくれた学生スタッフ。学科や学年を超えての協働作業にも関わらず、連携を取りながら取り組んでくれました。スタッフとして活躍してくれた学生達に感謝いたします。また、様々な場面でお手伝いいただきました、地域連携室の皆さま、そして、魔王・魔王妃に扮してくださいました保育科の戸田先生、篠木先生に心から感謝を申し上げます。



1. 企画名 「食と健康」に関する西南女学院大学・九州歯科大学
連携公開講座 ～「親子で歯っぴー食育こうぞ」～

2. 主催者名 西南女学院大学保健福祉学部栄養学科、九州歯科大学歯学部口腔保健学科

3. 企画代表者 西南女学院大学保健福祉学部栄養学科 坂田郁子

企画参加者 西南女学院大学保健福祉学部栄養学科 高崎智子（文責）

浜谷小百合、永田純美、竹下諄美、矢野夏実、学生 19 名

九州歯科大学歯学部口腔保健学科

邵 仁浩、中道敦子、船原まどか、辻澤利行、学生 7 名

4. 概要

(1) 背景および目的

文部科学省が実施した令和 4 年度「全国学力・学習状況調査」にて、毎日朝食を食べる小・中学生は、全く食べていない小・中学生に比べて各教科の平均正答率が高いこと、またスポーツ庁が実施した令和 4 年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」にて、毎日朝食を食べる小・中学生は、体力合計点が高い傾向にあること等が報告されており、成長期の子供の食習慣が体力・気力や学習意欲と関連することが指摘されている。健康的な食習慣を定着させるためには、小児期からの食育が重要であるとともに、咀嚼などの口腔機能を発達させ、口腔の疾病を予防するための指導や対策が必要となることから、厚生労働省は、平成 24 年に「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」を制定し、乳幼児期から高齢期までの各ライフステージの特性に応じた歯科口腔保健を推進している。

そこで、本学と九州歯科大学は連携して本公開講座を開催し、小児期からの適切な生活習慣を意識付けるための啓発活動を行うとともに、栄養と口腔保健の専門課程で学ぶ学生に啓発活動の機会を提供することを目的とした。

(2) 開催日時・場所および参加人数

対象者：小学生とその保護者

開催日時：2023 年 11 月 23 日（木・祝）10：00～13：00

開催場所：西南女学院大学 2 号館 1 階

参加者：子供 18 名、保護者 14 名、計 32 名（11 組）

(3) 活動内容

①講演「咀嚼について」：九州歯科大学口腔保健学科 教授 中道敦子 先生

②講演「おうちで楽しく食育」：西南女学院大学栄養学科 准教授 浜谷小百合 先生

③試食「栄養たっぷりバランス食」：西南女学院大学栄養学科 学生

④体験・啓発コーナー

腸活・腸によい食事の紹介、塩分・カリウムチェック：西南女学院大学栄養学科 学生

ブラッシング指導・お口の相談会・オーラルフレイルについての紹介：

九州歯科大学 歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士、口腔保健学科 学生

⑤工作教室：廃材や粘土を使った時計作り・パフェ作り・クッキーサンタ作り：(株) Bonjour

5. 評価

①「咀嚼」に関する講演・ブラッシング指導・お口の相談会・オーラルフレイルの啓発

噛むことで色が変化する咀嚼チェックガムを使って咀嚼能力を確認するなど、子供が興味を持つような工夫を凝らした楽しく学べる講義であった。またオーラルフレイルに関する啓発資料を作成・掲示し、ブラッシング指導や口腔に関する相談会を実施した。「ガムで咀嚼力を調べるのが楽しかった」「噛むことの大切さをあらためて考えた」「よく噛んで食べることをこれから意識して家でも話していこうと思った」「歯並びの相談をすることができてよかった」などの感想をいただき好評であった。

②「食育」に関する講演

元小学校栄養教諭による講演は、野菜の花の写真から野菜を答える等の Q&A 形式を取り入れたり、動画を活用したりと、子供の関心を引くように工夫された楽しい講義であった。「野菜の花など知らないことを知れてよかった」など「興味深かった」との声を多くいただいた。

③「栄養たっぷりバランス食」の提供

献立：ごはん、かぼちゃのクリームシチュー、カルシウムサラダ、シャキシャキゼリー(人参)。家庭の食事では摂取量が不足傾向にあるカルシウム・ビタミン A を充足できる献立を作成した。学生は、献立作成・栄養価算定・大量調理を担当し、試食前にはミニ栄養教育「じょうぶな身体を作るために」を実施した。シチューのレシピを記載したリーフレットを配布したが、すべてのレシピを知りたいという意見があったため、その他についても準備すべきであったことは反省点である。カルシウムサラダの小松菜が苦手な参加者が一部にみられたが、「食事もおいしく栄養について勉強になった」「すごくおいしかった」「家でも作ってみたい」「簡単に栄養バランスの良いメニューをもっと知りたい」などの感想をいただき好評であった。

④腸活・腸によい食事の紹介、塩分・カリウムチェック

学生が作成した啓発資料を掲示し、食事内容についての相談・指導を実施した。

⑤工作教室

子供を対象として開催するにあたり、北九州市の地域振興や子育てママの応援プロジェクトを展開している(株) Bonjour に協力いただいた。(株) Bonjour は、北九州市政 60 周年記念事業として採択された「みらいつなぐ北九州 60th 工作マルシェ」を市内各地で開催しており、今回の工作イベントは子供の参加を促すことにつながったと考える。

食に関する正しい知識と生活習慣を身につけるためには、小児期からの意識付けが重要である。本公開講座では、栄養学科と口腔保健学科が協働し、子供が関心を持ちやすい体験プログラムを活用した啓発に取り組んだ。各企画は大変わかりやすく、「子供と一緒に楽しく学べた」と全体的に好評であった。また学生たちは、今回の活動を通して、大学で学んだ専門知識をもって健康教育を行うことができたとともに、栄養と口腔保健の連携によるチーム医療への理解を深めることができた。

6. 今後の課題

今回、初めて小学生を対象として開催したが、低学年と高学年では成長段階の差が大きいこと等による以下の課題を認めた。参加者から得た意見をもとに改善していきたい。

①各企画は、時間を短く設定し、子供が興味を持って理解しやすいよう工夫したが、低学年では集中

力が続かない様子もみられた。そのため、保護者が講演に集中できなかったという意見をいただいた。また工作教室では、子供たちが同じイベントに集まったために待ち時間が生じたとの指摘があった。企画の数をしぼり開催時間をさらに短縮する等について検討したい。

- ②試食については、小学生の嗜好を考慮した食材選びや、子供への提供量の調整が必要であった。
- ③開催時間に遅れて来場する参加者がいたり、食べる速度がちがうために試食の終了時間がまちまちとなったりしたため、小学生の特性に配慮した進行を検討したい。
- ④開催時期：11月末に実施したが、インフルエンザの流行による学級閉鎖が相次いだ時期と重なってしまい、参加予約していた6組が当日欠席した。今後は開催時期を再考したい。

7. 活動経費

西南女学院大学地域貢献活動助成金 5万円（内、試食提供のための食材費 約3万円）
 工作教室については、材料費として各工作あたり500円を参加者に負担いただいた。

8. 謝辞

本公開講座に参加いただいた地域住民の皆様、また小学生への工作イベントを開催するにあたって企画運営および広報活動に多大なる協力をいただいた（株）Bonjour様に感謝申し上げます。



九州歯科大学による講演
「咀嚼について」



西南女学院大学による講演
「おうちで楽しく食育」



九州歯科大学による
ブラッシング指導・お口の相談会
「オーラルフレイルってなあに？」



「栄養たっぷりバランス食」



ミニ栄養教育
「じょうぶな身体を作るために」



「塩分チェック・カリウムチェック」食事指導



工作教室



「腸活ってなあに？」腸によい食事を紹介

1. 企画名 **観光庁補助事業：地域独自の観光資源を活用した看板商品の開発事業（行橋市看板商品開発事業）**

2. 主催者名 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 株式会社フーディア

3. 企画代表者 西南女学院大学 人文学部観光文化学科 高橋幸夫

4. 参加者 観光文化学科4年 岩切悠乃 片山ひびき 神田千聡 福田千夏 守田美桜
観光文化学科3年 坂本采奈 小路麻央 福島直子 道城有紗 宮田らな 三好萌映

5. 概要

(1) 背景及び目的

「SisterBeach プロジェクト」は、SisterBeach 構想をもとに長井浜公園及び行橋市を活性化させるために始動した活動である。SisterBeach 構想とは、釜山(韓国)ー長井浜(行橋)ー宜蘭(台湾)の3都市の海岸域で交流協定を結び、SisterBeach として当該ビーチを含む地域の発展を目指すものである。本活動は、新型コロナウイルス感染拡大以前より実施してきた行橋市活性化事業をベースに、新展開させたものである。現在は感染症緩和に伴い、国内インバウンド状況は徐々に戻りつつあり、長井浜公園及び行橋市におけるインバウンドを見据えた地域活性化を目的とした。

(2)活動内容

ア. 宿泊施設「そらすな」プロモーションビデオ撮影

2023年11月7日に福岡県行橋市長井浜公園の敷地内にオープンした宿泊施設「そらすな」のプロモーションビデオに学生2名が出演した。

イ. 旅行会社に SisterBeach 構想の提案

「そらすな」の広報を兼ねて、台湾・韓国の旅行会社へ SisterBeach 構想の提案を実施した。台湾は実際に現地へ出向き、台湾本社の旅行会社4社を訪問した。韓国は東京支店を持つ韓国本社の旅行会社1社を訪問した。

ウ. 台湾(宜蘭)・韓国(釜山)視察

2023年9月11日～15日に台湾の宜蘭、2023年11月23日～26日に韓国の釜山を視察した。視察内容は以下の通りである。

【台湾(宜蘭)】

- ・宜蘭近郊ビーチ(東澳湾、外澳ビーチ)視察
- ・旅行会社訪問(創造旅行社、山富旅行社、雄獅旅遊、可樂旅行社)及び意見交換

【韓国(釜山)】

- ・釜山近郊ビーチ(鎮下海水浴場、日光海水浴場、広安里海水浴場)視察
- ・ホテル(アナンティヒルトン釜山、ロッテホテル)視察及び意見交換

6. 成果

ア. 旅行会社に SisterBeach 構想の提案 (台湾・韓国)

「Sister Beach」構想を旅行会社に提案した結果、両国の観光動向や需要の見解を基に、構想及び現在の行橋市・長井浜地区に対する客観的な意見を得るという収穫があった。長井浜及び行橋市の現状と両国観光業関係者が抱く長井浜のイメージや求める内容などを比較し、課題を新たに発見することができた。

イ. 台湾(宜蘭)・韓国(釜山)視察

【台湾(宜蘭)】

台湾旅行会社の訪問を終えて、課題点や改善点、日本へのインバウンド状況が明確になった。特に、台湾の人々が考える日本旅行の在り方を具体的に知ることができ、今後の展開に対する要点となった。

【韓国(釜山)】

釜山近郊ビーチの視察を終えて、長井浜公園及びビーチの今後の展開に活かせる取り組み事例を得た。屋外にプロジェクターを設置しインスタ映えスポットを設けたり、蓄光顔料で階段や建物をペイントし視覚的にも楽しめる空間を作ったりなどビーチに訪れるきっかけ・目的となる工夫が施されていた。今後は釜山近郊ビーチで得た事例を参考に新たな視点での事業に取り組むなど、行橋市・長井浜公園のさらなる発展を目指す。

7. 活動を振り返って

今年度の活動を終えて、行橋市及び長井浜公園活性化に対する今後の展開を大きく広げる足掛かりを得た。また、旅行会社や現地視察先でのプレゼンテーション、専門家を交えた議論など、大変貴重な機会となった。学生主体の本活動では企画・進行を一から行い、楽しさ・達成感を大いに感じながら、観光及びマーケティングを学ぶ学生として必要な視点・ビジネススキルを培うことができた。今後も Sister Beach 構想を通じて言語や異文化の壁を越え、「人と人・人と地域・地域と地域」が一体となる取り組みを目指す。

8. 謝辞

本活動を終始温かく見守ってくださった、株式会社オリエンタルコンサルタンツ様及び株式会社フーディア様に御礼申し上げます。特に今回は、海外交流という新たな展開を進めるにあたり、多大なるご協力・ご支援をいただきました。ありがとうございました。



鎮下海水浴場(韓国)



旅行会社 雄獅旅遊(台湾)

1. 企画名 北九州市のインバウンド観光振興活動

2. 主催者名 西南女学院大学人文学部観光文化学科

3. 企画者代表 西南女学院大学人文学部観光文化学科 劉明

4. 概要

(1)活動の経緯と目的

北九州市のインバウンド観光振興活動は、①仁川交流会②第二回学生対抗九州観光ビジネスプランコンテストの2つ活動を行なった。

①仁川交流会は、劉ゼミ3年生が実施した。劉ゼミでは、昨年度から仁川大学とオンライン交流会を行ない、仁川大学とMOUを締結したという背景がある。今年度は北九州市の「竹害」に着目し、課題解決策として福岡県立小倉商業高等学校と共同で竹炭パウダーを使った商品開発を行なった。仁川交流会では、北九州市の竹害と新たな観光資源の周知を目的とし、北九州市のインバウンド観光振興を目指す。

②第2回学生対抗九州観光ビジネスプランコンテストは、劉ゼミ4年生がこれまでの地域貢献活動を通じて学んだ北九州市における環境問題や取り組み、韓国人の観光に対するニーズを活用し、北九州市のインバウンド観光振興に繋げるビジネスプランを立案する。コンテストでは、ビジネスプランにより九州全域または九州各地の地域資源の特色を活かしつつ、九州のリピーター獲得に繋げる事を目的としている。

(2) 実施日時・場所・参加人数

①仁川交流会

実施日	時間	場所	活動内容	参加人数
2023年 10月2日(月)	17時～19時	小倉駅周辺	動画撮影	劉ゼミ生2名
2023年 10月3日(火)	17時～19時	クルーズカフェ	商品開発	劉ゼミ生2名
2023年 10月4日(水)	17時～19時	小倉駅周辺	動画撮影	劉ゼミ生2名
2023年 10月5日(木)	17時～19時	クルーズカフェ	商品開発	劉ゼミ生3名
2023年 10月26日(木)	13時～14時半	本学 (オンライン)	北九州市の1日 観光スポット紹介と課題解決の 取り組みについて 質疑応答	劉明 本校学生25名 小倉商業高校 学生3名

②九州観光ビジネスプランコンテスト

実施日	時間	場所	活動内容	参加人数
2023年 12月9日(土)	12時半～17時	電気ビルみらいホール	ビジネスプランの提案 プレゼンテーション	劉明 本校学生4名

5. 評価

・学生参加者の感想

①仁川交流会

- ◎今回の交流会を通して、北九州の魅力を伝えることが出来た。直接交流出来ずとも、表情や声から様子がハッキリと伝わったし、和やかなでお互いの意見を話しやすい雰囲気を作られておりとても良かったと思う。
- ◎Vlogという新しい形で、実際に観光するような感覚を届けることが出来た。また、観光以外に知ってほしい竹害問題についても、チョコレートという触れやすい形に変えて伝えることが出来た。これによって私は、地元について興味を持ってもらうことの喜びを感じ、インバウンドや地域活性化への興味が高まった。
- ◎海外の学生とのコミュニケーションだけでなく、ゼミ内でもコミュニケーションを取り、役割を分担し取り組むことが出来た。更に、去年先輩方が始めた活動を繋ぐことが出来たことも嬉しく感じるし、更にレベルアップ出来たという評価をいただけて良かった。これからもまた繋げていけたらいいと思う。

②九州観光ビジネスプランコンテスト

- ◎コンテストを通じて、九州の観光に対してどのようなニーズが求められているのか、観光地として活性化させるための様々な知識を得ることができた。また、他の入賞チームと比べると今回提案したビジネスプランには、より具体的なビジネスの要素や今後に繋がる進展、観光における課題解決の要素が不足しているように感じた。このことを次回のコンテストだけでなく、今後のゼミ活動に活かしていくことで北九州市の周知に繋げていきたい。
- ◎ビジネスプランコンテストに参加する中で、自分たちのアイデアをビジネスとして活かすという点を考えるのが難しかった。コンテストでは、他大学のプレゼンテーションから新しいアイデアの可能性に触れることができ、視野を広げることができた。
- ◎プレゼンテーションの準備では、相手に分かりやすく伝えることを意識して取り組むことができた。私たちは挑戦と学びから自分自身の成長に繋げることができ、良い経験になった。

6. 今後の課題

- ①オンラインでの交流会を通して、韓国人が北九州市について抱いているイメージやニーズを知ることができた。今後も引き続き仁川大学との交流を図り、長期にわたって海外の同年代の学生に北九州市を知ってもらいたい。現在、COVID-19 による規制緩和が進んでいるため、オンラインではなく対面で交流会を開催することを目標とする。今回の活動で作り上げた竹害対策の方法を今後の活動にも活かしていく。
- ②ビジネスプランを事業化するために、より具体的なビジネスの要素や観光における課題解決の観点は必要不可欠である。ゼミ活動を通じて北九州市の観光の現状や課題を学び、視野を広げることで、引き続き北九州市のインバウンド観光振興に向けた活動を行なっていきたい。

7. 謝辞

北九州市のインバウンド観光振興活動にご協力いただいた国際政策課、福岡県立小倉商業高校、仁川大学、クルーズカフェの方々、九州ビジネスプランコンテスト事務局の皆様ならびに西南女学院大学の教職員・学生の皆様に対し、感謝の意を申し上げます。

・添付資料



仁川交流会の様子



仁川交流会でのプレゼンの様子



コンテスト本選での様子



コンテスト本選での様子

1. 企画名 **北九州魅力探求プログラム「アオハルし放題」**
「北九州の魅力を『リ・デザイン』で探求する！」
レゴシリアスプレイ第3回ワークショップ

2. 主催者 第一ピアサービス株式会社

3. 企画者代表 西南女学院大学人文学部観光文化学科 劉明

4. 概要

(1) 活動の経緯と目的

北九州市役所 国際政策課を通じて以前から交流があった第一ピアサービス株式会社は、社会課題解決を目的とした事業開発支援に取り組んでいる。社会問題解決のための新事業考案という目標において、高校生や大学生などの若者の新しい感覚や視点、意見を取り入れたいという狙いから、この活動の話をいただいた。この活動は、国土交通省令和5年度共創モデル実証プロジェクト採択事業である。オール北九州・産官学金連携で共創プラットフォームを構築し、ふるさと・北九州市の地域課題の解決をテーマにワークショップを通じて、交通を含む地域課題の解決と社会人との交流を通じたキャリア教育に取り組むことで、地域の「交通分野」「観光まちづくり」などといった将来の地域経営を担う人材へ成長することを目的としている。劉ゼミでは地域活性化に力を入れている。観光と交通には密接な関わりがあり、地域の活力を高めることや交流の架け橋となるなど、多くのメリットがある。そのため、ワークショップを通じて交通分野の知識を深めることで北九州市の活性化や観光振興に活かしていく。

(2) 実施日時・場所・参加人数

日程	時間	場所	活動内容	参加人数
2023年 12月16日 (土)	13時～17時	ATOMica 北九州 (北九州市小倉北 区京町 3-1-1 セ ントシティ 7F)	・劉明、空かおり（一般社 団法人未日来 代表理事） による講演 ・レゴシリアスプレイ グループに分かれ、意見 交換や発表を行う。	劉明 学生8名 高校生や社会人 約25名

5. 評価

(1) 学生参加者の感想

- ◎ワークショップを通して、年齢問わず様々な視点から北九州の観光、地域産業、まちづくり、スタートアップの4つについてそれぞれグループで試行錯誤しながら考えることが出来た。劉先生の「交通と観光」のお話から、交通と観光は密接に関わっていることが分かった。そのため、北九州が観光の場としてより発展して行くためには交通の面も整えていく必要があると感じた。また、その後のレゴシリアスプレイで北九州の魅力を考える際のヒントにもなり、新たな視点を取り入れられた。レゴシリアスプレイは初めて体験したが、普段言葉では表現しづらいことも、自然と形に表すことができた。童心に返りながら北九州の今後の観光の在りかたについて考えることができ、貴重で有意義な時間となった。
- ◎ワークショップに参加して、幅広い年代の方々とお話しをする中で、人それぞれ違った考え方を持っているということが感じられた。レゴブロックを使用して北九州の魅力について表現をした際に、私は豊かな自然と都市機能が共存していることを表現した。しかし、他の方は北九州の合併都市について、交通について、過去と未来を結びつけた表現などをしており、同じお題でも人それぞれ違うことを表現していた点が、とても興味深かった。その後、なぜその表現をしたのか等の、作った人の説明を聞き、Q&Aを通して新しい考え方を取り入れることが出来た。今回のワークショップでは、自分の考えを上手くまとめることが出来ず、言葉に詰まってしまうことがあった。そのため今回の経験を活かして、次のワークショップではもっと上手く自分の意見をまとめることが出来るように意識していく。
- ◎今回のワークショップではレゴブロックで北九州の魅力を再発見するというやり方を始めて体験し、とても斬新で興味深いと感じた。お題を決めず自分の想像だけで作品を作ったり、決められた題材から自分が気に入ったもの一つを選んで作り、その作品と一年前の自分を結びつけて説明したりするなどの、想像力を最大限に引き出すような体験を今までしたことがなかったため、難しかった。しかし、こじつけでも自分の考えを作品と結びつけることで、より想像力を豊かにしてくれたと思う。各班で、「私が考える北九州の魅力」を作成したのだが、同じテーマでも誰一人被ることなく班ごとのストーリーが生み出されていたことがとても面白いと感じた。今回、ワークショップに参加し、様々な方々と交流したことで、自分自身の考え方の幅を広げることが出来たため、とても良い経験になったと思う。

6. 今後について

(1) ワークショップの課題

今回のワークショップでは、北九州の魅力を改めて再認識し、より知識を深めることが出来たが、課題を見いだすところまでには至らなかった。そのため、今後の課題として

は、今回のワークショップを基に北九州の課題やその解決策を考え、実行していくこと
であると考えられる。

また、北九州の魅力に関しても、北九州を知らない多くの人々に知ってもらえるような
広報活動を行わなければならないと考える。今回のワークショップを通して、普段関わ
ることの出来ない企業の方や学生の方と交流が出来たことで、コミュニティが広がっ
た。そのため、その方々との交流を通して、北九州が今以上に活気あふれる街となるよ
う、様々な活動に取り組んでいきたい。

(2) 1月以降の抱負

1月から、高校生が提案した北九州をPRするアイデアを実現にするため、私たちがサ
ポート役となり、実際に形にする活動を行っていく予定である。私たちの今までの学び
や、これまで培ってきた専門知識を存分に活用し、高校生の活動に積極的に関わって
いきたい。また、今回課題として挙げられた、北九州の課題解決に繋がることを意識しな
がら今後の活動に取り組んでいく。

7. 謝辞

今回のワークショップにお誘いいただいた第一ピアサービス株式会社、ご指導いただ
いたファシリテーターの方々、その他社会人や高校生、参加して下さった先生や学生の全
ての皆様に対し、感謝の意を申し上げます。



劉先生による「交通と観光」の講演



参加者の集合写真



レゴシリアスプレイ作品説明の様子



レゴシリアスプレイ作品作成の様子

1. 企画名 **つなぐヒカリプロジェクト 2023**
2. 主催者名 北九州高速鉄道株式会社
3. 企画代表者 西南女学院大学 人文学部 観光文化学科 高橋幸夫
西南女学院大学短期大学部保育科 藤田稔子
4. 参加者 観光文化学科4年 岩切悠乃 福田千夏 守田美桜
3年 小路麻央 田所紗佳 坂本采奈 福島直子
道城有紗 宮田らな 三好萌映
看護学科1年 田中千尋 橋本実侑 藤永菜緒美

5. 概要

(1) 背景及び目的

小倉商業高等学校と西南女学院大学観光文化学科、西南女学院大学短期大学部による共同プロジェクト。コロナ禍で学生生活を制限された高校生と大学生が共同し、地域活性化に貢献したいという思いから始まった活動である。

(2) コンセプト

コロナ禍で生活を制限された人々をターゲットにし、「明るい未来をヒカリでつなごう」というコンセプトをプロジェクトの軸として活動している。未来には「地元の未来」と「私たち一人一人の未来」、ヒカリには「イルミネーションの灯り」と「若い世代のエネルギー」という気持ちが込められている。また「人と時間と空間（場）をつなぐ、ひとつのストーリー性」を創りあげることが意識して活動している。

2回目の実施となる今年、2023年度は「モノレールでモドレール」をコンセプトとした。懐かしいものに触れながら自分たちの過去を思い出してもらい、次の新しい自分に繋がってほしいという思いが込められている。

(3) 活動内容

福岡県立小倉商業高等学校生徒と西南女学院大学生が北九州高速鉄道株式会社（北九州モノレール）様ご協力のもと、特別装飾列車のプロデュースを行った。

実施日	2023年12月2日（土）
実施場所	展示：小倉駅 運行：小倉駅～企救丘駅～小倉駅
参加生徒数	16名（当日欠席含む）
参加学生数	13名
一般参加者数	73名

☆2車両ずつコンセプトを定めた4両編成のモノレールを特別列車としてプロデュースし、
"一夜限りの特別列車"を運行した。



☆1,2車両目のコンセプトは、教室や駄菓子等、あの頃の懐かしい空間を表現した
「回想列車」とした。

だがし家ちゃりんこ（イオンモール八幡東店）様のご協力により、モノレール内にて初の動く駄菓子屋を提供した。

☆3,4車両目のコンセプトは、
999号での宇宙とクリスマスの融合
を楽しめる「宇宙×クリスマス車
両」とした。

車内では西南女学院大学短期大学の藤田先生のご指導のもと、看護学科の学生がコンセプトに合わせた絵本の読み聞かせを行った。



☆運行前には小倉駅で車両展示を行い、
列車の発車待ちの人々等、多くの人々に見
ていただくことができた。また、展示中
にはホームにて、大学生によるハンドベル
演奏も行った。

企救丘駅では、ラッキー&ヴィッキーに
宇宙から遊びに来てもらい、握手・記念撮
影を行った。またクリスマスに向けてサン
タさんへのお願い事の記入や、小倉駅同
様、大学生によるハンドベル演奏を行っ
た。併せて、大人の方にはクリスマスティー、
お子様にはリンゴジュースを提供し
た。



6. 活動を通しての学び（活動を振り返って）

- ・ イベントを企画し実施するまでに、当日までのスケジュールを細かく立て、行動していくことの大変さ及び、他者の協力の大切さを学んだ。
- ・ イベントを成功させるためのチーム連携と、参加者の立場となり物事を考える大切さを学んだ。

7. 謝辞

本活動においてご支援・ご指導をいただいております北九州高速鉄道株式会社様、ご協力いただきましたビッグバンプラ座様、だがし家ちゃりんこ様、暖かく活動を見守ってくださった地域住民の皆様のお力添えにより活動が実現できましたこと、また参加生徒・学生の成長につながっておりますことを心より御礼申し上げます。

8. 添付資料



事前告知ポスター



高校生・大学生集合写真
宇宙×クリスマス車両にて

トピックス

1. 4年ぶりに対面での地域貢献活動交流会を開催

2023年3月10日（金）、2022年度の地域貢献活動交流会を開催しました。対面での実施は実に4年ぶりです。本年度、地域連携室に活動申請を行った12団体がそれぞれ前半と後半にわかれ、ポスターセッション形式で発表を行いました。どの団体の発表も、ポスターのデザインや内容など十分に工夫されており、大変見ごたえ・聞きごたえのあるものとなっていました。本年度は、教職員と一部の学外関係者のみの参加でしたが、それでも活発な質疑応答が行われ、皆さんの交流も深まったようでした。

なお、2023年度の地域貢献活動交流会は、2024年3月1日（金）に予定しています。



【ポスターセッションでの様子】

2. 女性のがん撲滅に向けてー福岡県Cプロジェクトに参加ー

Cプロジェクトは、若年女性のがん検診受診率向上の対策強化を目的に、福岡県と県内の大学に在籍する女子学生が共同で、啓発資材の企画・制作、広報活動などを行うものです。4つの大学から2名ずつが参加し、本学からは看護学科3年生の臺百華さんと椎野怜さんがメンバーとなりました。

プロジェクトでは、若年女性の視点に立った啓発資材のコンセプトやデザイン、広報展開先などについて活発な議論が行われ、最終的な成果としてパンフレット、ポスター、グッズ（ポケットティッシュ）、動画が作製されました。

令和5年Cプロジェクトの詳細については、福岡県ホームページ（QRコード）をご覧ください。

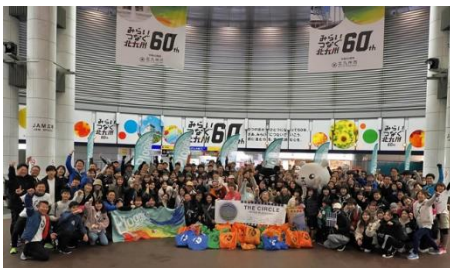


3. コラボおせち（井筒屋×栄養学科）

栄養学科・山田志麻准教授のゼミでは、2019年から（株）井筒屋とコラボしたおせちのメニュー開発を行っています。伝統的なメニューに学生たちの斬新なアイデアを取り込み、栄養面だけでなく、保存や安全性も考慮したおせちを作っています。完成までには苦勞も多くありますが、お陰様で、毎年、早々に完売しています。



4. 「プロギング in 北九州 2024」に参加



1月21日(日)、小倉駅 JAM 広場にて、(株)小倉縞織、一般社団法人プロギングジャパン、北九州 ESD 協議会未来創造委員会の共同企画による「THE CIRCLE~KITAQ PLOGGING~」が開催されました。本学は「地域プロジェクト」(人文学部合同授業)の一環として参加し、学生たちは小倉の見所を取り入れたコースの考案や小倉縞織の生地を使ったしおりの制作を行いました。



※PLOGGING (プロギング) とは、ジョギングしながらゴミを拾う新しいフィットネスです。

5. 「リバフェス」に参加

9月17日(日)、リバーウォーク北九州で開催された「リバフェス」に参加しました。今回は、北九州市内4大学の合同企画となっており、本学からは、大学祭イベント(大学祭実行委員会)、英語体験ブース(英語学科)、ぬかだきブース(栄養学科)の3つのブースを出展しました。どのブースも盛況で、参加した市民の皆さんに大変喜んで頂きました。



6. 松本清張記念館 開館 25 周年記念 ミニ企画展

7月20日から11月5日(12月17日まで延長)、松本清張記念館において「松本清張が君たちに伝えたかった徳川家康」が開催されました。

この企画展では、記念館からの依頼により入場者へのプレゼントとして、観光文化学科の学生が作成した「清張さんからのメッセージカード」が配られました。



2023年度 地域連携室の取り組み

1. 商船三井テクノトレード株式会社・株式会社 MOTENA-Sea との連携プロジェクト

本学では、商船三井テクノトレード株式会社・株式会社 MOTENA-Sea と「教育事業に関する包括連携協定」を締結し、水素燃料電池船「HANARIA」（2024年4月より関門エリアにて就航予定）の活用プログラムの企画・開発を行うプロジェクトに取り組んでいる。2023年度は以下の3つのプロジェクトに取り組んだ。

（1）親子ふれあい企画「お宝 GET だぜ！」

船内イベントのプレ企画として、親子ふれあい企画「お宝 GET だぜ！」（2023年11月3日）を実施した。当日は、未就学児から小学生まで約20名の子どもたちの参加があり、学生スタッフ（保育科、栄養学科、看護学科）と一緒に、それぞれ海賊に扮して食育を兼ねたゲームやさまざまなミッションをクリアする遊びを楽しんだ。



（2）スイーツ開発

乗船客への手土産として提供する予定のスイーツ2点の試作を行った。1つは、アソートオートミルクッキー5種（シナモン・ナツメグ、くるみ・レーズン、紅茶、いちご、抹茶）、もう1つは、船型をイメージした洋風饅頭（卵形で上にホワイトチョコ）を試作した。



〈アソートオートミルクッキー〉



〈洋風饅頭〉

(3) フライヤーの翻訳

今後のインバウンド需要を考慮した多言語対応の準備として、「HANARIA」を紹介するフライヤーの翻訳を行った。人文学部が中心となり、英語、中国語、韓国語を学習している学生たちがそれぞれの言語に翻訳した。韓国語の翻訳にあたっては非常勤講師の協力も得た。



2. 中国茶セミナー2023

(1) 主催

地域連携室・女性活躍ワーキンググループ

(2) WGメンバー

神崎明坤（観光文化学科）、藤田稔子（保育科）、橋本真弥（看護学科）、樋口真己（人文学部）

(3) 運営スタッフ

荒木剛（福祉学科）、吉原悦子（看護学科）、福永健司（会計課）、観光文化学科 2 年生：入江 和美、土綿 梨央、野上 礼華、山本 美鈴、渡辺 咲弥

(4) 概要

「女性活躍ワーキンググループ」では、西南女学院から地域へ発信する「女性が輝く」ためにできることを考えた。「女性」の関心が高いものに「美容」「健康」がある。私たち西南女学院の知的財産としての専門学問分野、これらをかけ合わせ中国茶をテーマにしたセミナーを計画した。

1) セミナーの目的

中国茶の特徴及び中国茶の歴史と文化、種類及びその薬性を 5 種類のお茶を飲み比べて学ぶ。誰でも気軽に茶を味わい、静かで安らぎのある時間を過ごすことのできる中国茶文化を取り入れていくことは、コロナ禍以降、対面で人と接触する機会が少なくなっている現状において、また、多忙で慌ただしい日々を過ごす日本人にとって大変意義深いものと考えた。中国茶を通して地域社会一人ひとりが異文化に対する関心を高め、理解を深めようとするココロを養うことをこのセミナーの目的と位置づけ、企画した。

2) 対象者及び開催日時・開催場所

対象者：市民（30名/募集定員 30名）

募集方法：中国茶セミナーのホームページを立ち上げ、申し込みは web で受付とした。

開催告知は、チラシの配布、福岡県及び北九州市の生涯学習情報提供サイト、地域連携室 facebook の広告を使用し行った。

開催日時：2023 年 11 月 23 日（木・祝）13 時～14 時半（受付：12 時半）

開催場所：小倉城庭園 研修室

3) 実施内容

①学内プレセミナー：当日の運営について検討するため、リハーサルを重ね、助言を得た。

- ・参加者：地域連携室運営協議会、室員メンバー
- ・開催日時：2023年8月22日（火）14時～15時30分
- ・開催場所：8号館5階会議室

②事前準備：茶葉や茶道具の手配、当日の流れの打ち合わせ

- ・お茶を講師の神崎先生を含め3名で手分けし淹れることにしたため、中国茶の作法についての稽古を複数回開催した。
- ・講演内容を分かりやすくするための工夫を学生スタッフが中心になり準備した。

③中国茶セミナー 2023

講演：中国茶の歴史、中国茶について

体験：中国茶の試飲 白茶・普洱茶・鉄観音（烏龍茶）・紅茶・緑茶

講師：観光文化学科 教授 神崎明坤

(5) 評価

今後の開催検討のため、セミナー終了時に参加者にアンケート回答にご協力いただいた。概ね好評であり、継続開催の要望も多く寄せられた。アンケート結果で特に目立った意見は、「学生スタッフの細やかな配慮への称賛」と「神崎先生の講演内容の豊かさと次回への要望」だった。このセミナーは、「女性」をターゲットに企画を進めていたが、実際の参加者は学生からご高齢の方、また、男性も多かった。年齢・性別問わず多くの市民が、「中国茶」もしくは「中国の文化」に関心を寄せており、このようなセミナーを求めておられることを実感した。

また今回は、キャンパスを離れ、小倉城庭園で開催したことも特筆すべきことである。開催日が祝日ということもあり、外出のついでにセミナーを受講できるという環境はよかったのではないだろうか。一方、会場で使用した研修室が定員には狭く、また、当日は庭園の周辺では様々なイベントがあり、参加者には窮屈な想いをさせてしまったことは今後の改善点とし、対策を練っていききたい。

(6) 経費

¥15,000（参加費一人500円）、¥100,000（芳賀文化財団の活動助成金）及び地域連携室経費より支出。

(7) 振り返りと今後の予定

セミナーの企画を進めていく中で、様々な発見や学びがスタッフ自身にあり、セミナー当日だけの成果ではなく、実りある活動であった。中国茶の歴史という過去からの話だけでなく、現在、中国では「中国茶」の価値がどのようなものかということも知ることができた。特に、「白茶」は、飲む美容液と言われているとのことで、まさしく「美」に関心が高い女性にとって魅力的な内容であった。来年度2回目を企画するにあたり、開催日程も含め、参加者の要望を踏まえたうえで開催したい。今回のセミナー盛会の裏では、多くの方々のご協力があった。特に、お茶等中国からの仕入れや運搬等では神崎先生及び先生のご家族のご協力、及び小倉城庭園の皆さまに様々なご便宜を図っていただいた。感謝したい。

(8) 資料

1) 広報用チラシ及び申込用ホームページ



2) 当日の様子



3. 卒業生パネルの制作・展示

女性活躍ワーキンググループの取り組みとして、6号館のロビー、オープンキャンパス、クリスマス礼拝に卒業生パネルの展示を行った。本年度は卒業生8名分を追加制作した。



4. 後期北九州市民カレッジ

A. 高等教育機関提携コース

(1) 概要

本学では、地域の皆様の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進を図ることを目的に、「令和5年度後期北九州市民カレッジ」を開講している。今年度は、10月16日～11月20日の6回シリーズで実施した。

(2) 全体テーマ 暮らしに役立てよう「保健の知識」

日々の暮らしの中で、知っておきたい保健の知識や考え方を保健福祉学部（看護・福祉・栄養）の講師陣がわかりやすく解説した。

(3) 各講座のテーマ

第1回：ストレスとこころの健康-日々のストレスから自分の健康を考える-

担当：福祉学科 講師 梶原 浩介

内容：ストレスとこころの健康の知識、メカニズムなどについて学び、受講生同士で日々のストレスの向き合い方についてコミュニケーションゲームを用いて話し合い、活発な学びの場となった。



第2回：栄養素の役割

担当：栄養学科 教授 尾上 均

内容：五大栄養素とはどのようなものなのか、中でも特に三大栄養素(タンパク質、糖質および脂質)が生命という営みの中でどのような役割を演じているのかを理解した。次いでバランスの良い食事とは三大栄養素それぞれの役割のバランスがとれたものであることを学んだ。



第3回：あなたの“あし”はお元気ですか

担当：看護学科 教授 溝部 昌子

内容：あしにまつわる骨折や血栓症についての資料を見ながら学んだあとは、看護学生のサポートを得ながら受講生自身が心臓から末梢への血管を描き込んだ。また、腕の脈拍に触れたり、器械であしの拍動音を聴くことで動脈の流れを確認し、歩きの基本となる皮膚や血流の健康の大切さを実感することができた。



第4回：運動がつくる「生き生き脳」!

担当：福祉学科 教授 稲木 光晴

内容：運動と認知的健康を結びつける神経生物学的メカニズム、そのメカニズムを介して認知的健康を高める運動について、最新研究から学び、メンタルヘルスにおける運動の重要性を再認識する場となった。



第5回：感染症の予防も重要

担当：栄養学科 准教授 藤和 太

内容：感染症の基礎知識を学び、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症を例に感染症流行の予防には、感染源の発見と除去、手洗い、うがい、マスク使用など感染経路対策、日頃の健康な生活習慣の維持と予防接種が重要であることを再確認した。



第6回：あなたの目は大丈夫？デジタル漬けから目を守ろう

担当：看護学科 講師 鹿毛 美香

内容：目の構造と機能についての知識とパソコンやスマートフォンを使用する作業が目に与える影響について良い事、悪い事と両側面から理解し、デジタル漬けの生活の中で、目を守る予防行動のとり方まで、自身でできることを認識する場となった。



(4) 受講生数

受講者数 24 名、スポット受講生数 3 名。

(5) 総括

受講生の方は、日常生活の身近なテーマであったため、積極的に講義に参加し、意見や質疑も活発であった。アンケート結果によると、「健康に関する身近なテーマで役に立った。」「『知る楽しさ』や『新しい発見』はいくつになっても楽しいことだと再確認した。」と概ね好評だった。また、今年度は講座の開始時間を早めたため、受講しやすかったとの感想が見られた。一方で、「質問の時間がもう少し欲しい。」「質疑応答の時間が長い方がよい。」といった意見もあったため、次年度以降の運営の改善点としたい。

B. 大学連携リレー講座

(1) 概要

北九州市民カレッジにおいて、あらかじめ設定した「共通テーマ」に対し、大学の専門性や特性を活かした講座企画を募集し、複数の大学による連携講座を実施している。本学から 1 名が毎年講師として参加している。

(2) 全体テーマ

「大学の魅力！地域に発信！！」「大学だけではもったいない！名物講師大紹介！」「実は、、、意外な分野が得意です！！」など、地域のみなさんに大学の魅力を発信する講座。

(3) 担当講師

短期大学部保育科・教授 戸田 由美

(4) 講座テーマ 「言葉の花束 ―こころを開く」

昨今の子どもたちのボキャブラリーには驚かされることが多々あります。子どもたちの心が開かれていくそのプロセスにはどのようなステキなエッセンスがもたらされるのでしょうか。お話ししたいと思います（「受講者へのメッセージ」より）。

(5) 内容

101 年を迎える西南女学院の主たる教育内容に併せ、短期大学部保育科の幼児教育の大切さ、根幹を成すものについて説明した。

具体的には、子どもの成長過程の特徴に対し、決して安易な方法論を提示するのではなく、子どもの無限の可能性を、自分自身の問題に置き換え実践していることなどである。また、授業で使用する「仕掛け絵本」や「音楽が奏でる絵本」を紹介すると、受講生の方々は珍しいのか驚いていた。



5. フードドライブキャンペーン

このキャンペーンは、NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲインが、食品ロスや子どもの貧困について普及啓発を図るために行っている。家庭で賞味期限内に消費できない食品を回収して、必要な方にお渡しする活動であり、本学は食品回収ボックス設置場所のひとつとして、2017年度より継続し実施し、今年で7年目である。

2023年度の開催は下記のとおり。

第1回 2023年9月5日(火)～9月12日(火)

第2回 2024年1月16日(火)～1月23日(火)

今年度も、学生・教職員の協力により多くの寄付品が集まった。

**フードドライブ
キャンペーン**
1月16日(火)～23日(火)
収集場所：6号館1階 庶務課前

◎ 寄付いただきたい食品
賞味期限が1ヶ月以上、未開封のもの
米・乾麺・缶詰・レトルト・インスタント・菓子類

△ 寄付できないもの
パッケージが破損し中身が出ているもの
使いかけのもの
アルコール・野菜等

SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT
〒810-0192 福岡県北九州市八幡区
〒810-0192 福岡県北九州市八幡区
shiki@seinan-j.ac.jp
Facebook



6. 広報活動

(1) Facebook

ブログに代わり、今年度から地域連携室主催のイベントや、ゼミや学外活動で取り組んでいる地域貢献活動をお知らせし、学内外への広報を積極的に行った。また、中国茶セミナー開催のため、今年度は郵送での広報活動ではなく、Facebookの広告を利用することで、参加者が定員に達することができた。

更新記事 53件 (2023年2月1日～2024年1月末)

(2) 毎月の地域貢献活動ポスターを制作・展示

月初めに、その月に実施予定の地域貢献活動を一覧にしたものをポスターにし、正門横などの掲示板や学内電子掲示板を利用し、広く活動を紹介した。

地域連携室 Vol.01
令和5年4月号 No.1

今月の地域貢献活動

いぼりの森の「みんな、だぁ〜い好き!!」
「みんな♪ブレイク」

代表者：久保 真由子
日程：4月20日(水)
場所：井原市民センター1階フリースペース
対象：未就学児とその保護者
内容：子供と親が楽しめる「あそび」を実施し、子供・親・学生の気持ちを笑顔にします。

一緒にあそぼう

代表者：福地 山本佳代子
日程：4月29日(土)
場所：グリーンパーク
対象：障害のある子どもとそのご家族、その家族
内容：余暇活動の支援を行います。学生は、発達の企画、準備、実践を通じ、支援の仕方様々なことを学びます。

SUSTAINABLE GOALS 地域連携室
chiiki@seinan-jo.ac.jp
Facebook

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えました

地域連携室 Vol.03
令和5年6月号 No.1

今月の地域貢献活動

いぼりの森の「みんな、だぁ〜い好き!!」
「みんな♪ブレイク」

代表者：百崎 豊田由子
日程：6月15日(水) 9:20-9:30
テーマ：雨のお友達
場所：井原市民センター1階フリースペース(参加申し込み：9:30-9:15)
対象：未就学児とその保護者
内容：雨と結びあわせる「あそび」を促し、子供・親・学生の気持ちを笑顔にします。(ホーリス科での実施です)

お散歩の途中には、
むにゃむにゃと
みんなが楽しく遊
びましょね。

SUSTAINABLE GOALS 地域連携室
chiiki@seinan-jo.ac.jp
Facebook

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えました

地域連携室 Vol.06
令和5年9月号 No.1

今月の地域貢献活動

手形で空・海に好きなことを書こう

代表者：看護学科 吉原悦子
日程：9月16日(土) 10:00-12:00
場所：ひのさと48(宗像市)
対象：宗像市近隣在住小学生
内容：「家ではできない遊びをしよう」という趣旨で、みんなの想像力で、1つ1つ作品をみんなで作って上げる達成感を味わって体験してほしい。

SUSTAINABLE GOALS 地域連携室
chiiki@seinan-jo.ac.jp
Facebook

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えました

地域連携室 Vol.08
令和5年11月号 NO.3

今月の地域貢献活動

親子で歯っぴー食育こうざ

代表者：保健福祉学部 栄養学科 坂田 郁子
日程：11月23日(水・祝) 10:00-11:00
テーマ：「食と口腔」に関する講座
場所：本学学内
対象：小学生およびその保護者
内容：本学と九州歯科大学による公開講座「食べ物と健康」九州歯科大学：「口腔保健」

中国茶セミナー2023

講師：人文学部 観光文化学科 神崎 明伸
日程：11月23日(水・祝) 13:00-14:30
場所：小倉城公園茶室
内容：中国茶の文化を知ろう
定価：お茶代 300円
参加費：500円

SUSTAINABLE GOALS 地域連携室
chiiki@seinan-jo.ac.jp
Facebook

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えました

MARRY CHRISTMAS
A HAPPY NEW YEAR

観光文化学科
福祉学科
福祉学部
看護学科
英語学科
短期大学部 保育科
栄養学科
助産科

SUSTAINABLE GOALS 地域連携室
chiiki@seinan-jo.ac.jp
Facebook

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えました

地域連携室 Vol.08
令和5年12月号 NO.2

今月の地域貢献活動

つなぐヒカリプロジェクト2023

代表者：人文学部 観光文化学科 高橋 幸夫
日程：12月2日(土)
場所：北九州モノレール車内
対象：一般市民
内容：小倉区役所・小倉商業高校・北九州高速鉄道・西南女学院による共同プロジェクト

九州魅力探求プログラム「アオハし放鷹」

代表者：人文学部 観光文化学科 野田 明
日程：12月16日(土)
場所：ATOMIca北九州
対象：中学生・高校生・大学生
内容：ふるさと・北九州市の地域課題の解決をテーマとしたワークショップ

SUSTAINABLE GOALS 地域連携室
chiiki@seinan-jo.ac.jp
Facebook

西南女学院は2022年に創立100周年を迎えました

今につながる力

—学内ボランティア「ちゃれんじ」の活動から得たこと—

北九州市門司区役所 保健福祉課 竹川 桜来
(保健福祉学部福祉学科 2017年度卒業)

6年前に福祉学科を卒業しました。在学中は、1年次から卒業まで、障害児とそのきょうだい児の余暇活動支援を行う学内ボランティアグループ「ちゃれんじ」にて、毎週の活動に取り組んでいました。

社会人になってからは、障害のある方やご家族への相談支援に4年間従事し、その後、母校の地域連携室と学生総合支援室の事務員を経て、今年度より市役所職員として日々奮闘しています。現在は、区役所の高齢者や障害のある方への総合相談窓口勤務し、日々、市民の方々と接しています。

耳がご不自由なお年寄りの方、障害によりご自分の思いをうまく伝えられない方など、様々な方が来られる部署ですが、大学生活で学んだ「その方の特性（特徴）に合わせて支援をする」ことが役に立っていると実感する日々です。



「ちゃれんじ」では、活動の企画・立案から実行、振り返りまで、先生からアドバイスをいただきながら、学生が中心となり取り組むことができました。1、2年生の頃は、子どもたちと楽しく余暇活動を行うことを目的に活動をしていましたが、自分たちが最高学年として活動を引っ張っていく立場になると、ただ活動を楽しむだけでなく、よりよい活動にするにはどうしたらよいか、メンバー間でよく考えるようになりました。『子どもたちの障害って実際に詳しく知らないかも？』『活動中はどうしても子どもたちとかかわることで精いっぱいになってしまうので、別の機会にお母さんたちと話をする機会を設けてみるのは？』というような、『こうしたい！』『こうしたほうが良い活動ができるかも！』

といった自分たちの思いを出し合い、どういった活動ができるのか知恵をかき集め、実際に行動してみる。当時は当たり前のように動いていたことが、非常に貴重な経験であったと感じています。

学生のうちは、何か困ったことがあればすぐに手を差し伸べてくれる距離に先生方がいると思います。『ああしたい、こうしたい』という思いを形にするまでに、自分たちの力ではどうにもできないこともあるかと思います。その時は先生に助けをもらいながら、自分の思いをつき進めていくことが、自分にとっての大きな財産となると思います。

社会人になると、まずは配属された部署の業務を覚えることで精一杯になりますし、名刺の渡し方、メールの送り方など、社会人としてのマナーを身につけなければいけません。徐々に業務をこなせるようになってきた時に、（特に福祉職は相談者（相手）の立場にたって物事を考えるため）『この業務はより効率よく改善できるのではないかな？』『相手がより生活を快適に送ることができる方法はないかな？』と考えるようになってくると思います。

その時に、「ちゃれんじ」の活動で身についた、考える、意見をまとめる、計画を立てる、実行する、振り返るといった流れが応用できると気づきました。自分は何ぞそう思うのか、取り組むことで何が改善されるか、どう取り組むことでよりよくなるのか、そのように考えられるようになったのも、「ちゃれんじ」のおかげだと思います。学生のうちに、先生方からたくさんのアドバイスをもらい、成し遂げた経験が自信になっています。

学生の皆さんには、ぜひたくさんの経験をしてほしいです。必ず、経験してよかったと思える日が来ると思います。時には失敗することもあるかもしれませんが、どのような経験もいつか絶対に自分の糧になります。先生方の力を借りつつ、ぜひたくさんのことに挑戦してみてください。



マスメディアに見る地域連携室 2023 年度の歩み ～地域連携室の足跡～

2023 年 9 月 29 日（金）毎日新聞 朝刊

西南女学院大学尾学生 プロモーション活動 行橋の魅力海外に届け
「打って出る」台湾の旅行会社でプレゼン

2023 年 12 月 3 日（日）毎日新聞 朝刊

北九州モノレール 時空超え出発！！ 小倉商高 西南女学院大 プロデュース車両
「駄菓子屋」「宇宙でXマス」お目見え

2023 年 12 月 21 日（木） 九建日報紙

北九州の魅力探求で意見交換 第一ピアサービス ワークショップ

2024 年 1 月 23 日（木） 九建日報紙

人材育成へ起業学校開催 第一ピアサービスと西南女学院大

2024 年 2 月 10 日（土） 毎日新聞 朝刊

①「Sister Beach」構想 …行橋・台湾・韓国つなぐ 西南女学院大の学生
韓国も視察 観光促進へ手がかり探る

②竹炭でコーヒー飲料 西南女学院大・小倉商高の学生が考案 北九州ならではの味を味わって

2024 年 2 月 13 日 九建日報紙

みやこ町の魅力を探求 第一ピアサービス レゴ活用しワークショップ

2023年度 地域活動論叢

2024年3月1日発行

編集発行 西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部
地 域 連 携 室
〒803-0835 北九州市小倉北区井堀1丁目3番5号
電話 093 (583) 5243

印 刷 モリプリンティング株式会社
〒806-0049 北九州市八幡西区穴生3丁目11番5号



西南女学院は 2022 年に創立 100 周年を迎えました。

地域貢献活動キャッチコピー

「とどけ！ぬくもり 要（かなめ）から」



西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部 地域連携室

〒803-0835 北九州市小倉北区井堀 1-3-5
chiiki@seinan-jo.ac.jp



地域連携室ブログ